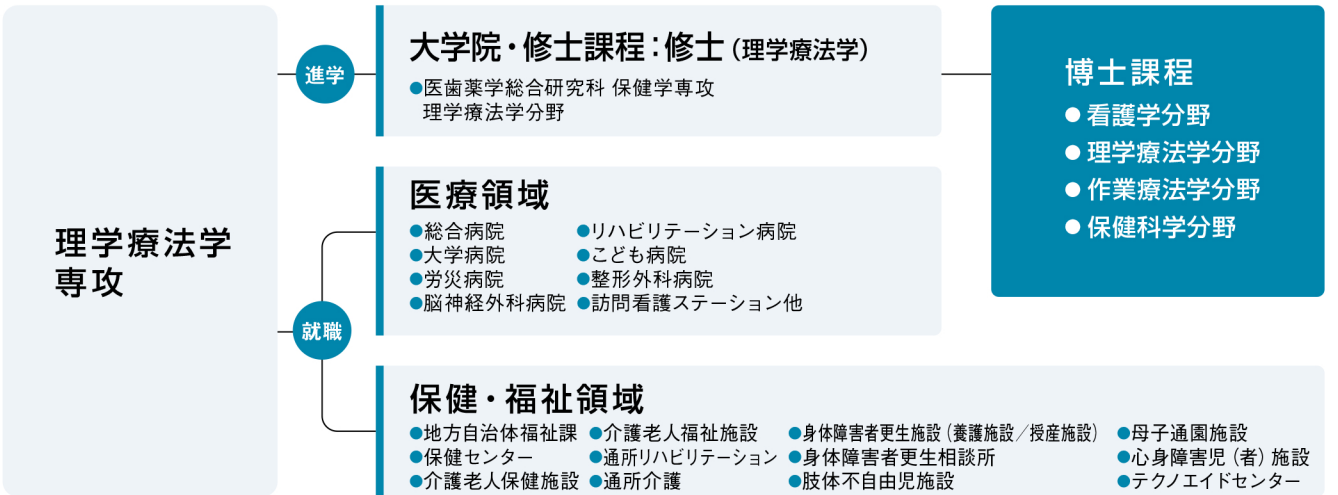
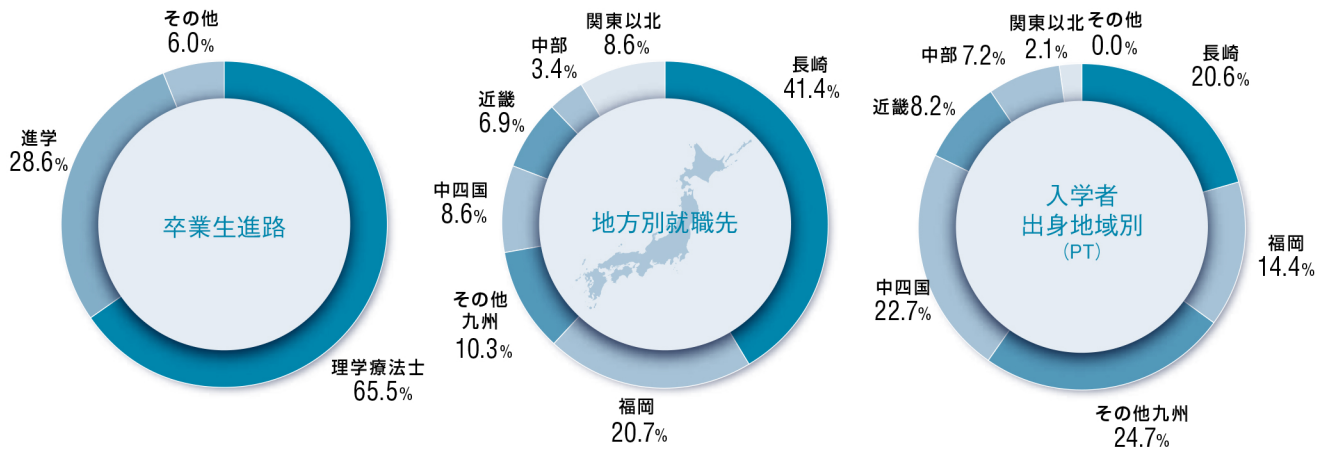


# 卒業後の進路



## 過去5年の実績



### 活躍する卒業生

やりがいを感じながら臨床に取り組み、充実した日々を送っています



藤原 優大  
保健学科第16期生

私は現在、長崎大学病院に勤務し、様々な疾患を抱えた患者さんに対してリハビリテーションを行っています。その中で、患者さんが元気になっていく姿や、直接感謝を伝えてくれる機会に恵まれ、毎日やりがいを感じることができています。しかしただ仕事をしているだけでは患者さんは元気にはなりません。常に「自分の家族が入院したら、どのような治療を提供されたいか。」ということを考えながら責任感を持って取り組み、足りない知識は先輩方の力を借りながら充実した毎日を過ごしています。プライベートでも、最近では実際に自分の家族から頼ってもらうことも増え、この仕事を続けてよかったなと感じているところです。理学療法士になるための、授業やテスト、実習、国家試験など根気が必要なことも多いですが、魅力的な職業だと思います。是非やりがいを見出して存分に楽しんでください。

関節可動域制限の原因となる拘縮の病態を明らかにする基礎研究を行っています



瀬口 千晶  
保健学科第18期生

私は現在、大学院の修士課程に進学し、研究活動に励んでいます。理学療法は、身体に障害のある方や障害の発生が予測される方に対して、立つ・座るなど基本動作能力の回復や維持を図り、日常生活が送れるよう支援します。しかし、長期間の入院などで関節を動かさない状態が続くと、その可動範囲は制限され、日常生活に支障が出てしまいます。この障害は頻繁に起こる一方で、治療に難渋するケースが多いという現状があります。そこで私は、この関節可動域制限の原因となる拘縮の病態を明らかにするための基礎研究を行っています。この研究成果は、対象者の方々が豊かな日常生活を営むための一助になると信じ、日々研鑽を積んでいます。将来は、多角的な視点から科学的根拠に基づく理学療法を提供できる理学療法士になりたいと考えています。